

修羅

DEMONS

松本俊夫監督作品
a film by Toshio Matsumoto

血と怨念に彩られたこの世の地獄絵

燃え上がる狂気の炎の中に

消えた小万の恋...

...はたして、愛は勝つのか？

世紀末に よみがえる

跳屋南北原作の時代劇の傑作

「もう何も見たくも、聞きたくもございません。
たとえこの世に陽がさそうとも、
このうじ虫野郎は闇にはまるばかりでござんす。
思えば無駄な一生でござんした。」

中村賀津雄 唐十郎 三条泰子
今福正雄 松本克平 田村保 観世栄夫 大野新士 山谷初男 南裕輔 江波多寛児 川口敦子
脚本・監督：松本俊夫 原作：跳屋南北「盟三五大切」 石沢秀二「盟三五大切」 撮影：鈴木達夫 美術：朝倉振 地味：西松文一
松本プロダクション・日本A.T.G提携作品／パートカラー／スタンダード／一九七一年／二時間十四分／ニュープリント版／配給：イメージフォーラム



われは傷口にして刃 いけにえにして刑吏 何という悪賢い 神秘的たくらみ するとあなたは人類を愛してはわれられません さよう憎んでいます おお 薔薇たちの帝国 わが生れし日 亡び失せよ……

薔薇の葬列

松本俊夫監督作品
a film by Toshio Matsumoto

ピーター

上屋嘉男 小笠原修 城よしみ 仲村紘一 フラメンコ梅路
太田サチ子 田中太郎 西山忠彦 東恵美子 小松方生

【特別出演】秋山庄太郎 粟津潔 池田龍雄 小島武 篠田正浩
藤田繁矢(敏八) 堀川雄雄 八木治郎 淀川長治

【脚本・監督】松本俊夫 【撮影】鈴木達夫 【美術】朝倉振 【地味】西松文一

松本プロダクション・日本A.T.G提携作品・1969年／モノクロ／スタンダード／【時間】74分／ニュープリント版／配給：イメージフォーラム

鏡よ鏡 この世で一番美しい人は だれ？

太陽 切られた首 世界は 終わりに 近づいている 個人の精神は 相つぐ否定によって 自己自身の 絶対に達する



【松本俊夫全劇映画】
薔薇の葬列
 Funeral Parade of Roses

「ジュネ」のオーナー権田（土屋嘉男）とエディ（ピーター）のめくるめく情事で映画は始まる。二人の密会を権田の愛人でもある「ジュネ」のママ、レダ（小笠原修）が見ていた。ベッドの中で権田はエディにぎさやいた。「もう少し辛抱だ。レダを必ず辞めさせる。そうしたらお前は『ジュネ』のママじゃないか」。幼いエディを残し家を出ていった父。母の手一つで育てられたエディは孤独な少年だった。そんなある日、母の情事を目撃したエディは母を発作的に殺してしまう。ベトナム戦争帰りの麻薬の売人トニーと一夜を共にするエディ。フーテンのゲバラ（内山豊三郎）たちとのマリファナと乱交パーティの世界に引き寄せられていくエディ。

1960年代末期の新宿、六本木、原宿を舞台に、ピーターとゲイボーイたちのコミカルなドラマは血の惨劇へと変わる。

「元祖ビジュアル系」ピーター、衝撃のデビュー。

六本木の売れっ子ゴージャスダンサーだった16歳の美少年ピーターの突然のスクリーン・デビューは、一つの事件だった。家出して上京、ゲイバーで売れっ子になるといった、映画のストーリーと実際の経歴とが虚実入り交じり、無名の少年を一

躍「時代の神話的スター」の位置にのし上げた。金髪に化粧、ファッショナブルな衣裳を身にまとい週刊誌のグラビアに登場するピーターは、今でいうビジュアル系の元祖といっていだろう。妖艶なゲイボーイ姿と初々しい美少年ぶりが見られるのも、この映画の大きな魅力だ。時代の寵児ピーターは夜と朝のあいだに「で歌手としてもデビューまた黒澤明監督の映画をはじめ俳優畑慎之介としても活躍しているのは周知の通り。

異色の登場人物たちによるウソかマコトか？

映画に登場するゲイボーイたちは、俳優ではなくすべて素人のゲイボーイが起用された。映画監督の篠田正浩、藤田敏八、デザイナーの粟津潔、演出家の蛭川幸雄らも本人の役で特別出演。故淀川長治も「こわかったですね。何ということでしょう、こののろわれた人間の運命。では、さよなら、さよなら〜。」と登場し、笑いをとっている。新宿街頭でのハブニング、監督によるゲイボーイ・インタビューなど、どこまでが現実で、どこからがフィクションなのか、観客を惑わせる。撮影時にはバトカーまで駆けつけたゲリラ撮影だったという。

母を殺して父と寝た、現代のオイディプス神話。

パゾリーニの『アポロンの地獄』でも描かれたオイディプスの悲劇は、この映画では母を殺した少年がそれと知らずに父と交わるというふうに、舞台を現代に移し関係は反対になる。「倒錯」した世界を舞台にした「倒錯した近親相姦」の世界。しかも「現代のオイディプス」は一国の王ならぬゲイバーの「女王」だ。冒頭にボードレール『悪の華』の一節「われは傷口にして刃、いけにえにして刑吏」という字幕が掲げられるように、ことさらに戯画化されて描かれたこの映画は、悲劇の不可能な時代に突きつけた監督松本俊夫の悪意の刃なのかもしれない。

監督：松本俊夫 *Toshio Matsumoto*

1932年生れ。映画理論家として活動しつつ、『西陣』（61）『石の詩』（63）等のドキュメンタリー映画を手がける。68年には『薔薇の葬列』で劇映画に進出、つづいて『修羅』（71）『十六歳の戦争』（73、公開は76年）『ドグラ・マグラ』（88）等を監督。日本の代表的な実験映画作家でもある。著書に『映像の発見』、『幻視の美学』他。



7月24日(土)より衝撃の連続ロードショー!!

各 回 入 替 制	7/24(土)	25(日)	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	7/31(土) → 8/6(金)
	12:20 薔薇の 2:25 十六歳 4:15 修羅 6:45 薔薇の	12:20 薔薇の 2:25 十六歳 4:15 薔薇の 6:20 修羅	12:20 十六歳 2:10 薔薇の 4:20 十六歳 6:20 修羅	12:20 薔薇の 2:25 十六歳 4:15 修羅 6:45 薔薇の	12:20 修羅 2:50 薔薇の 4:55 薔薇の 7:00 十六歳	12:20 修羅 2:50 薔薇の 4:55 薔薇の 7:00 十六歳	12:20 十六歳 2:10 薔薇の 4:15 修羅 6:45 薔薇の	12:30 2:35 4:40 6:45

【松本俊夫全劇映画】 モーニング&レイトロードショー	7/24(土) → 30(日) AM10:20 & PM8:50 桂枝雀追悼 『ドグラ・マグラ』	7/31(土) → 8/6(金) AM10:40 & PM8:50 松本俊夫・映像の発見【実験映画集】
-------------------------------	---	--

華やかな「忠臣蔵」の裏の愛の物語

赤穂浪人・源五兵衛は、仇討に加わりとうと、敵の目を欺くため酒と女にうつつを抜かす。だが、美しい芸者・小万への執心にはそれ以上のものがあり、小万も源五兵衛を慕い腕に愛の誓いの彫りものが。気が気ではない源五兵衛の忠僕・八右衛門は、なけなしの仇討闘争資金百両を主人の前に差し出すも、小万の使い三五郎が現れ、愛しい小万が他人に百両で身請けされるという。仇討のため一度は小万との縁を切るうとした源五兵衛だが、愛を選ぶか、武士の道を選ぶか、心は千々に乱れる。結局百両を投げ出して小万を選んだが……。さあ、ここからが地獄絵図。愛を選び、絶望の淵に落とされた源五兵衛の凄絶な復讐劇が始まる。

中村賀津雄、三条泰子、唐十郎の熱演による愛憎の残酷劇

主人公の源五兵衛には東映時代劇のベテラン・中村賀津雄（嘉律雄）を起用、エロスと憎悪のみなざる凄まじい演技を見せる。深川芸者小万には民芸の新人・三条泰子が妖艶な色気で源五兵衛との濡れ場を熱演、美しい死に顔でも話題を呼んだ。小万と共謀し源五兵衛の金を騙し取る三五郎を演じ異彩を放つのが、当時の「赤テント」状況劇場を主宰していた唐十郎。無残な宿命に翻弄される男を好演し、その強烈な存在感を観客に印象づけた。

「深刻ぶってはいけないのだ。
これはゲラゲラ笑ってみるべき映画だ。」

映画監督／大和屋竺

監督：松本俊夫

1932年生れ。映画理論家として活動しつつ、『西陣』（61）『石の詩』（63）等のドキュメンタリー映画を手がける。68年には『薔薇の葬列』で劇映画に進出、つづいて『修羅』（71）『十六歳の戦争』（73、公開は76年）『ドグラ・マグラ』（88）等を監督。日本の代表的な実験映画作家でもある。著書に『映像の発見』、『幻視の美学』他。

松本俊夫・映像の発見【実験映画集】

『石の詩』1963年／30分	『ホワイトホール』1979年／7分
『モナ・リザ』1973年／3分	『断層SHIFT』1982年／9分
『色即是空』1975年／8分	『エングラム』1987年／13分
『アートマン』1975年／11分	

●日本を代表する実験映像作家・松本俊夫の、60年代からの軌跡を辿る斬新な実験映画の特別プログラム。

【松本俊夫全劇映画＆実験映画集】
 前売1回券1400円／前売2回券&ペア券2400円

当日券：一般1700円・学生1400円・高校1200円・中小シニア1000円／当日3回券3900円

※チケットは、『薔薇の葬列』『十六歳の戦争』『修羅』『ドグラ・マグラ』『実験映画集』の共通チケットです。
 ※前売2回券&ペア券は、お一人で2作品ご覧いただくか、お二人で1作品にご使用いただけます。
 当日3回券は、お一人でしかご使用できません。オールナイトには使えません。

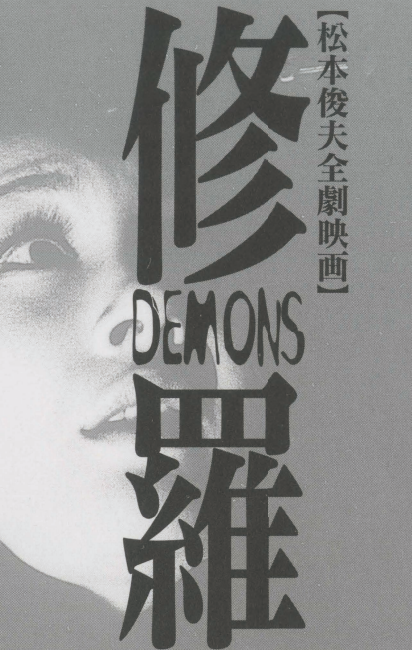
7月24日(土) PM11:00初日特別オールナイト〈ATGナイト〉	●60年代の映画情勢を切り拓いた 松本俊夫と大島渚のATG作品、一挙上映!!
『薔薇の葬列』（松本俊夫監督／1969年） 『新宿泥棒日記』（大島渚監督／1968年／主演：横尾忠則） 『修羅』（松本俊夫監督／1971年）	料金2600円均一 ●劇場窓口にて、整理券付きチケットを前売中!

スタイリッシュな時代劇の傑作

鶴屋南北の狂言「盟三五大切（かみかけてさんごたいせつ）」と、それを改作して青年座が上演した石沢秀二の台本をもとに、松本俊夫が脚本を書いた異色の時代劇。ATGの一千万円という低予算を逆手にとって、全編夜の闇、しかも登場人物12人中、9人が死に果てるという凄惨な怨念劇をスタイリッシュに描き上げた。朝倉摂の舞台劇を思わせる大胆なセット、名カメラマン鈴木達夫による黒を基調にしたハイコントラストの美しいモノクロ画面、無駄のない緊密な画面構成で展開される様式美は今なお新鮮な輝きを放っている。

「ポスト昭和元禄」の闇の絵巻

この映画が初公開されたのは、70年安保と三島由紀夫の自決のほとりも冷めぬ1971年2月。松本俊夫は新聞のインタビューにこたえて、製作意図を南北の生きた文化文政時代と重ねてこう語っている。「きらびやかな元禄時代のあと世相は濃い頹廢におおわれていた。一方、現代も「昭和元禄」の時代が過去のものになった。文化文政を「ポスト元禄」として把握するように現代も「ポスト昭和元禄」といえるのではないか。真っ赤な太陽が没して繰り広げられるこの闇の絵巻が、およそワン・ジェネレーション（30年）後の「ポスト・バブル」の時代にリバイバルされるもの何かの因縁なのかも知れない。



ドグラ・マグラ
 監督：松本俊夫／原作：夢野久作『ドグラ・マグラ』／出演：桂枝雀、松田洋治、室田日出男／活人堂シネマ作品／カラー／ビスタ／1969年／1時間49分
 ●映像化不可能とされていた夢野久作の奇書『ドグラ・マグラ』初の映画化。幻想と恐怖の迷宮体験。

十六歳の戦争
 監督：松本俊夫／出演：秋吉久美子、下田逸郎／サンオフィス作品／カラー／シネマスコープ／1974年／1時間34分
 ●豊川海軍工廠跡を舞台に秋吉久美子主演第一作、フォーク歌手下田逸郎出演の異色の青春映画。

Ciné Nouveau
U M E D A

新井町駅
ナビオ館
●TSUTAYA 梅田店
●シネ・ヌーヴォ 梅田
●M6出口 南口
一大阪駅
●泉の広場

シネ・ヌーヴォ梅田
ホワイティめだ 泉の広場M6出口北へすぐ
tel.06・6365・0094